

＜授業構想のポイント＞

① (学習課題に対する問題意識を高めるための手立て)

- ・導入では、人物に焦点を当てたクイズを出題する。生徒にとっての身近な人物の昔の写真を示すことにより、誰だろう、聞いてみたいという意識を高めさせる。
- ・既習事項を想起させながら、人物を尋ねる表現に気付かせる。

② (主体的・協働的な学習を促す手立て)

- ・目標言語材料を使用するトピック・学習形態の設定と、機械的な練習 (Mechanical Drill) から意味のある練習 (Meaningful Drill) へ移行する言語活動を組織する。
- ・ペアに1枚の絵を渡し、協力して意見交換をしながら、人物を予想する活動を設定する。

第1学年 英語科学習指導案 (略案)

1 単元 (題材) 名 NEW CROWN 1 Lesson5 Our New Friend

2 単元 (題材) の目標

- ・クラスメートや周りの人について関心を高め、積極的にインタビューをしている。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・人や場所について、相手に質問をしたり、それに答えたりすることができる。 【表現】
- ・対話文を読んで、いつ、どこで、誰が、何をなどに関する情報を読み取ることができる。 【理解】
- ・疑問詞の用法、及び、代名詞 him / her に関する知識を身に付けている。 【知識・理解】

3 単元 (題材) の指導計画 (全 10 時間)

第1次 疑問詞 who / when / where を用いた言語活動 (3時間)

第2次 代名詞 him / her の練習と教科書 GET①②③の本文内容の読み取り、英問英答の練習、本文の音読練習 (5時間)

第3次 Let's Talk 5 whose を使った言語活動 (1時間)

第4次 Lesson 5 文法のまとめ (1時間)

4 本時の計画 (1時間目 / 全 10 時間)

(1) 本時のねらい

疑問詞 who について、身近な人物の絵を見てペアで問答し合う活動を通して、その用法を理解し、英文で正確に書くことができる。 (知識・理解)

(2) 本時の構想

① 小学校外国活動とのつながり

小学校のテキスト、「Hi, Friends!」で、生徒は場面に応じた英語表現に多く慣れ親しんでいる。小学校での楽しみながら英語に慣れ親しむ学びを生かしながら、中学校の英語学習につなげるために、次の点に配慮した。

ア ゲーム的要素を活動の中に盛り込む。本時では、人物を当てるクイズの形式をとって、自然と目標構文の発話量が多くなるように活動を仕組んだ。また、小学校で行ったジャンケンを英語で行うことなどは、引き続き授業の中で自然に取り入れていく。

イ クラスルームイングリッシュを充実させ、授業での生徒の英語の発話が多くなるようにする。生徒対教師、生徒対生徒の英語の発話が増えるように、授業の最初にクラスルーム

イングリッシュを書いたカードを渡す。カードは、毎時間使用し、授業の振り返りや自己評価を併せて記録する形式にして活用している。クラスルームイングリッシュは、そのレッスンで身に付けさせたいものを選んで載せ、授業で使ったらチェックさせている。また、生徒の英語の発話や相づち表現などを授業の中で賞賛することで、生徒に自信をもたせ、意欲的な活動につなげる。

ウ 自然に書く活動へとつなげる。中学校に入学して、書くことを難しいと感じる生徒が多い。十分な発話練習の後に、英語を書いて表現する活動へつなげ、最終的には、自分でクイズを作って書く活動を行う。そのことにより、小学校から継続する話す活動を、書く力へと結びつけていく。

② 場面・状況設定

言語材料は、人物を問う疑問詞 who である。この言語材料を学ぶと、人物を問う表現に身に付けることになり、話題の中心がこれまでの一人称・二人称から、三人称の人へと広がることになる。したがって、場面は、人物が分からない状況を提示し、口頭練習の中でシルエットクイズを出したり、教師が描いた絵を英語で質問したりする形式にして第三者を問う形にする。

③ 意味や用法への理解を深めるために

生徒にとって身近な人物の昔の写真を見せ、「誰？」と生徒が自然と口にするような場面を提示する。Is he / she ~? と何度も質問するよりも1回の質問で「誰？」と聞くことができる表現の良さに触れる。その上で、「英語ではどうやって聞いたらいいか。」と考えさせる。その際、既習の What は物に対しての表現であり、人物ではどう表現するか、日本語のどの部分が未習であるかについて焦点化が図られるように工夫する。語順についても、既習表現の What と比較し、物を聞く場合と同じ語順であることを生徒に気付かせる。

④ 本時の手立て

生徒は、小学校の外国語活動において、What / Where / When / How many などの疑問詞を使った疑問文やその言語活動に慣れ親しんできている。中学校に入学し、言語活動に積極的に取り組むことができる一方で、英語を書くことに困難を感じ、文法の機能や役割について、理解が深まらない生徒が多くいる。

本時では、人について質問する疑問詞 Who の用法に焦点を当て、十分な量の発話から、語順や使い方などの用法について理解を深めさせる授業である。そのために、生徒が自ら用法を見付け出し、工夫された練習段階を通して、その文構造を意識できる練習が大切である。そのために、以下の手立てを講じる。

ア 課題提示の段階で、人物当てクイズを行う。昔の写真を見せて誰であるか考えるクイズを設定する。クイズを通して、人を尋ねる時にはどのように表現したらよいかについて、生徒に課題意識をもたせる。

イ 既習事項である What を用いた疑問文を想起させ、用法が同じであることに気付かせる。また、例文の提示により、疑問詞の後の語順が is this の形（疑問形）になっていることについても気付かせる。

ウ ペアワークのためのドリルは、最初は英文をそのまま繰り返す機械的な練習から始め、徐々に生徒に負荷を与える。ヒントを少なくしたり、口頭練習の絵を徐々に難度を上げたりして、思考しながら口頭で発話するように工夫し、スムーズに言語活動に移るようにする。

このことにより、人について尋ねる表現を理解し、それを用いて英語で対話したり、英文で書いたりして、表現できるようにする。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応	■評価・○留意点
<p>導入</p> <p>1 基本文の口頭練習を行う。(5分)</p>	<p>T1 Let's practice important expressions. Ss ペアに分かれて、日本語の基本文を英文に直して言う口頭練習を行う。</p>	<p>○1分間で交代する。 【資料1】</p>
<p>展開</p> <p>2 ペアで、絵を英語で説明する。(5分)</p> <p>3 写真見て、誰であるのかを予想する。(3分)</p> <p>4 学習課題をつかむ。(2分)</p> <p>5 例文や既習事項から、文法の規則を推測する。(5分)</p>	<p>T2 I'll show you some pictures. Please tell your partner about the picture in English. No Japanese, no gestures, please. [期待する生徒のやりとり]</p> <p>SA This is small. It is white. I have it in my pen case. 消しゴムのイラスト SB Is it an eraser? SA Yes, it is.</p> <p>T3 I have a picture in my bag. This is the picture. Today you have a "人物当て" quiz. You can talk with your friends. Do you have any ideas? S1 Is he Mr Terada? S2 Is he Mr Kagoshima? S3 だれかな。</p> <p>T4 「だれ？」とずばり聞く言い方があるとよいですよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <学習課題> 「～は誰ですか」と人を聞く時は、どう表現するか。 </div></p> <p>T5 How do you ask about things, "これ何?" in English? S4 What is this? T6 Very good. This is a person, 人. Can you ask "What is this"? Is this OK? S5 No. T7 Now, please look at the picture again. Who is this? Is he Mr Kagoshima? Who is this? I'll show you the answer. He is Mr Terada. Now, how do you say "だれ" in English? S6 Who かな。 T8 That's right. I'll show you some pictures. Who is this? S7 Conan. He is Conan. T9 Yes. He is Conan. Who is she? S8 She is Sazae.</p>	<p>○日本語やジェスチャーを使わずに、英語のみで説明するよう指示する。</p> <p>○職員の小さい時の写真を見せる。</p> <p>○学習課題を板書する。</p> <p>○who を聞かせながら、現在の写真を提示する。</p> <p>○例文を提示しながら、答え方を確認する。</p>

	<p>T10 Now let's learn about the rules. 使われている語句, 語順に注目して, 決まりを見付けましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><スライドに提示する英文> Who is this? Who is this boy? Who is she? Who are they?</p> </div>	<p>○文法の決まりを見付ける視点を示す。 ○ペアで話し合わせる。</p>
<p>6 表現をまとめる。 (5分)</p>	<p>T11 What is your idea, S9? S9 who があります。 S10 who の次は, is とか are とか。 S11 is の次は, this boy とかになります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><まとめ> Who is this? Who are they?</p> </div>	<p>○生徒の気付きをもとに黒板にまとめる。</p>
<p>7 Who is this? を使った口頭練習を行う。 (5分)</p>	<p>T12 Now let's practice. Ss 1 影や写真を見て, Who の疑問文を口頭練習する。 2 答え方の練習を行う。</p>	<p>○個人, ペア, 全体など, 形態を変えて行う。</p>
<p>8 絵の人物が誰かを尋ねる言語活動を行う。 (10分)</p>	<p>T13 Today you have one more “人物当て” quiz. I am good at drawing pictures. They are your teachers. Please talk in pairs and guess. [期待する生徒のやりとり] SA Who is this? SB He is Mr Kagoshima. Who is this? SA I think he is Mr Terada. SB Oh, he is Mr Terada.</p> <p>T14 let's check your answers. Who is this? S12 I think he is Mr Kagoshima. T15 Yes. He is Mr Kagoshima.</p> <p>T16 I have some more pictures. Please guess. Ss 絵を見て, 誰か質問する英文と予想を書く。 Ss 自作のクイズを考えて書く。</p>	<p>○ペアに一枚絵を渡す。 ○アイコンタクトや相づちなどに注意して言語活動ができるよう, 生徒を賞賛する。</p> <p style="text-align: right;">【資料2】</p>
<p>終末 (10分) 9 適用問題を行う。 10 本時の振り返りと自己評価を行う。</p>	<p>T17 本時の学習内容を確認する適用問題を行うよう指示する。 Ss 本時の振り返りと自己評価を行う。</p>	<p>■適用問題の正答率で評価する。 【資料3】</p>

(4) 本時の評価

評価方法: 適用問題の英作文の記述で評価する。

評価規準: Who を用いて, 正しい疑問文を書くことができる。

- A ワークシートの全ての英文を正しく書くことができる。
- B ワークシートの語順並べ替え問題を全て正しくできる。